

高知版CORE遠隔教育ネットワーク構想

背景

高知県西部に位置する幡多地域等の高等学校は、少子化や郡外への生徒流出による生徒減少で小規模校化し、多様かつ質の高い高等学校教育を実施するうえで課題が顕著となってきている。また、この地域は都市部から遠隔地にあり、高知市内への進学は保護者の経済的負担も大きい。

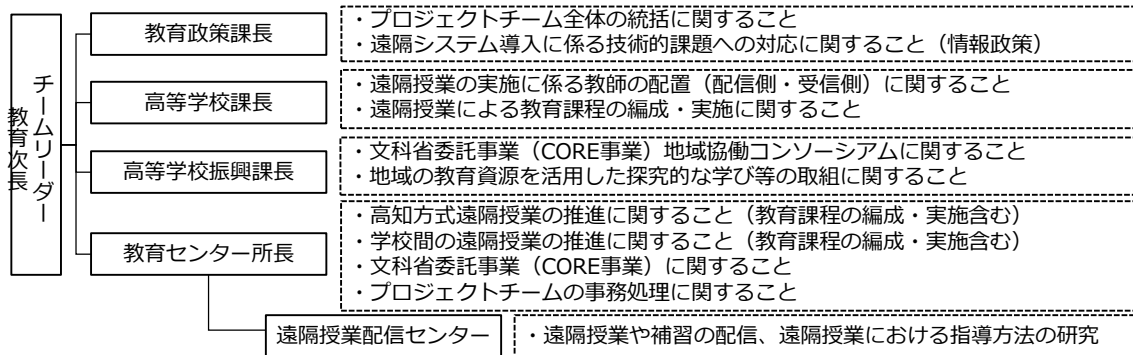
目的

幡多地域等の高等学校に遠隔教育ネットワークを構築し、個々の高校の教育水準の維持・向上から、ネットワーク全体としての教育水準の維持・向上へと取組を発展させ、「地域間格差を解消し生徒の進路希望を実現する」という高知版遠隔教育の目指す姿を実現させる。

1. 実施体制

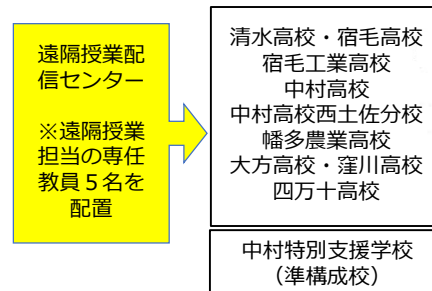
(1) 遠隔授業推進プロジェクトチーム（各課等の役割分担）

- 令和元年度に、教育次長をリーダーとして担当各課長等からなる遠隔授業推進プロジェクトチームを設置し、遠隔授業に係る事項について一体的に取り組む。



②構成校

- 遠隔授業配信センターを配信拠点として、構成校の生徒のニーズに応じた多様かつ質の高い教科・科目の開設や習熟度別指導の授業・補習等を配信
- 学校相互型遠隔授業の研究（R4試行）
- 地域課題探究学習による幡多地域等への郷土愛・地域貢献意欲の醸成



2. 取組状況

(1) 遠隔事業

- ①配信拠点型遠隔授業を実施（6校12講座週35時間）
- ②学校相互型遠隔授業の試行（数学Ⅱ、書道Ⅰ、情報Ⅰ、農業）
- ③多様な遠隔補習
- ④キャリア教育の実施

(2) コンソーシアム事業

- ①幡多・四万十地域高校教育地域協働コンソーシアム会議の設置
- ②「高校魅力化評価システム」を利用し、高校と地域の活動を評価
- ③高等学校の取組について市町村や産業界等への理解促進
- ④地域課題探究学習の実施（9校）

3. 今年度の成果（○）と今後の課題（△）

(1) 遠隔事業

- ニーズに応じた遠隔授業の実施
- 多様な遠隔補習、キャリア教育による進路意識の醸成等
- 実習を伴う科目におけるICT機器を活用した指導方法の試行
 - 書道：R5単位認定を伴う遠隔授業を実施
 - △情報：R5配信拠点型で単位認定（受信側の教員との連携、見取り等の研究）R5学校相互型でさらなる研究

→△農業：次世代型農業についての授業配信
実習におけるICT機器を活用研究の継続

(2) コンソーシアム事業

- 高等学校における地域と連携した取組について、市町村や産業界への理解促進
- △探究学習等における「教育資源バンク」の構築
- △市町村と産業界、高等学校とが協働した取組を行うための仕組みづくり

